

## 平成28年度 自己評価・学校関係者評価

岐阜県立関特別支援学校

学校番号 111

### I 自己評価

1 学校教育目標	創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。	
2 評価する領域・分野	学習活動・家庭や地域等との連携	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方針に対する共感度、信頼度は80%～93%と大変高く、昨年度の評価を上回った。家庭との連携についても昨年以上に高く評価されているが、自校の教育活動に対する自己評価等の伝達については、まだ改善の余地がある。</li> <li>・教職員の人柄や教育に対する姿勢は、とりわけ高い評価を得ている。昨年課題となった児童生徒の実態把握については、87%(+10%)と大きく改善された。</li> <li>・昨年、唯一肯定的評価が著しく低かった「…パソコンや情報通信等の情報手段能力の向上…」の項目は15%上昇し、74%の支持を得た。</li> <li>・「施設等の開放、開かれた学校づくり」では91%の肯定的評価を受け、「センター的機能」についても83%の支持を得た。積極的な広報活動が実を結んでいると感じた。</li> </ul> <p>「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象となる生徒がどんどん減少している。生徒と教職員の信頼関係については、1名の否定的な意見があることが分かった。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の教育活動や評価等をホームページや学校だより等を利用してより積極的に発信すると同時に、地域の学校や自治会と連携した取組を工夫する。</li> <li>・クラスや学年の枠を超えた活動や、他学部や他校との交流・連携を積極的に進める。</li> <li>・専門委員会を立ち上げ、授業でのICTの積極的活用を促し、PTA活動を通して汎用を図る。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職や分掌長を中心に、保護者だけでなく地域の学校や自治会にも、様々なアンケート結果や行事等での児童生徒の様子、学校が積極的に取り組んでいること等を、ホームページやメール配信、学校だよりや学部・学級通信等で積極的に発信していく。</li> <li>・教務や類型長・研究推進係を中心に、様々な集団で学習する機会を設ける。</li> <li>・専門委員会が発案し、職員のICT活用を図る。学部や類型を超えて、一人一人の児童生徒の実態に応じた活用法を考え、担当教員が実践する。保護者との情報共有を図り、家庭での実践を促す。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校内外での教育活動を事前・事後に保護者や地域へ発信する。	(1) 活動への参加状況と活動ごとの反省やアンケートの結果	
(2) 児童生徒の障がい特性や学習する内容に応	(2) 学習中や学習後の児童生徒の様子、及びアンケートや	

<p>じたグループ作りをする。</p> <p>(3) 一人一人の実態に応じたICTの活用方法を考えるために、基礎的な知識や活用方法を職員や保護者に広める。</p>	<p>職員反省の結果。</p> <p>(3) 児童生徒のICTの活用状況と職員や保護者の反省及びアンケート結果</p>																					
<p>8 取り組み状況・実践内容</p>	<p>9 評価観点</p>	<p>10 評価</p>																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級、学部や分掌から通信や案内等を発信すると同時に、学校だより等でも積極的に情報発信に努めた。</li> <li>・学年を超えた多様な学習グループ編成や児童生徒の実態に応じた学習グループ編成ができた。</li> <li>・7月「保護者・生徒対象アンケート」、11月の授業参観週間に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。</li> <li>・他校とのたくさんの交流学习や共同学習に意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・ICTのプロジェクトチームの協力で、環境整備や職員・保護者の研修に取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の教育活動への保護者の参加状況や活動への理解・協力は得られたか。</li> <li>②分かる授業、楽しい授業に取り組むことができたか。</li> <li>③体験的な学習を取り入れた授業ができたか。</li> <li>④様々な研修を授業実践に活用できたか。</li> <li>⑤教材教具は児童生徒一人一人に適したものであったか。</li> </ul>	<table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%;">A</td> <td style="width: 20%;">B</td> <td style="width: 20%;">C</td> <td style="width: 20%;">D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
A	B	C	D																			
<p>11 成 果  ・ 課 題</p>	<p>○病弱の児童生徒を見越して、「個別の教育支援計画」の見直しを図った。</p> <p>○クラスや学年の枠を超えた活動や他学部や他校との交流・連携を積極的に図ることができた。中濃特別支援学校分教室との連携も広げることができた。</p> <p>○11月の授業参観週間だけでなく、必要に応じて授業公開を実施した。</p> <p>○学校だよりや各学部・分掌からの通信において、内容の充実を図った。</p> <p>▲ABC類型の「個別の指導計画」の実態表が実態に適していない。</p> <p>▲ICTの活用については、保護者・職員ともに理解は広がったが、一部の活用にとどまっている。</p>	<p>総合評価</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%;">A</td> <td style="width: 20%;">B</td> <td style="width: 20%;">C</td> <td style="width: 20%;">D</td> </tr> </table>	A	B	C	D																
A	B	C	D																			
<p>12 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱の児童生徒を考慮に入れた、ABC類型の「個別の指導計画」の実態表を見直す。</li> <li>・情報担当の職員を増やし、年間を通じて計画的に研修を実施し、授業での活用を広げていく。</li> </ul>																						

## II 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある子が地域や社会全体で守られることが当たり前になればよい。社会へ出て行ってほしいし、社会へどんどん発信して行ってほしい。</li> <li>・「学校だより」は、中身が充実してきて、読めばイメージが彷彿してくる内容になっている。他の回覧と別にして町内に回しているが、早く帰ってきてしまうので、おそらくじっくりと見てもらえてはいないだろう。もっとポイントを絞って、地域の人が興味をもちやすいようなものがあるとよいのではないかな。</li> <li>・ICTの研修を学校が保護者と一緒に行うことは、保護者にとって思わぬ発見があったり、新たな連携が生まれたりするすばらしいチャンスである。ぜひ広げて行ってほしい。</li> </ul>
--

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	<p>安心・安全な学校生活</p>	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療機関との連携による健康管理」については、92%の肯定的評価を得ている。「緊急時の対応について」も95%の大変高い肯定的評価を得た。「いじめ」や「体罰」防止の取組については、若干の改善は見られたが、まだ認知度が低かった。</li> </ul> <p>「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全への配慮」については昨年の75%から100%と確実に改善された。また、いじめや体罰の認知については昨年同様0%である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康・安全に配慮した教育環境のより一層の充実</li> <li>・傷病事故等の危機管理体制の確立</li> <li>・安全・安心な心の居場所づくり</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>&lt;体育安全部を中心とした施設・設備の管理&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具や施設・設備の定期的な点検と修繕の実施</li> <li>・環境の日や、日頃からの定期的な清掃活動</li> </ul> <p>&lt;体育安全部・渉外部を中心とした緊急時への対応組織づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急災害時の対応として「命を守る訓練」「引き渡し訓練」の実施や「緊急サポートカード」校内設置、「非常用食料・水」の個人用備蓄</li> <li>・非常変災時における対応組織・基準づくり</li> <li>・不審者侵入時の対応訓練の実施・寄宿舎での対応づくり</li> </ul> <p>&lt;保護者を中心とした医療的ケア、医療機関との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、看護講師との連携と医療的ケア検討委員会の実施</li> <li>・児童生徒の傷病事故を想定した緊急対応訓練の実施</li> <li>・職員・保護者への専門家による研修の実施</li> </ul> <p>&lt;生徒支援部を中心とした安心・安全な環境づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや体罰のない温かい居場所のある学校づくり</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 毎月の安全点検日における、全職員による施設・設備の点検の実施</li> <li>(2) 児童生徒の実態に応じた「命を守る訓練」、緊急対応訓練等の実施</li> <li>(3) 個に応じた医療的ケアの周知徹底と事故防止のためのチームづくり</li> <li>(4) 環境の日や、日頃からの定期的な清掃活動</li> <li>(5) 児童生徒会を中心とした行事や活動とクラスを超えた交流活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全職員による安全点検と点検内容の妥当性。点検後の適切な処置、処理の実施状況</li> <li>(2) 事前・事後の職員による反省やアンケート結果</li> <li>(3) 事故の発生状況と保護者による意見やアンケートの結果</li> <li>(4) 職員や保護者による意見やアンケートの結果</li> <li>(5) 児童生徒や保護者による反省やアンケートの結果</li> </ul>	

8 取り組み状況・実践内容	9 評価観点	10 評価																								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検や清掃を行った。</li> <li>・学校全体で年3回「命を守る訓練」を実施した。寄宿舎生や児童生徒の実態に応じた「命を守る訓練」を実施した。職員の救急法研修を実施した。</li> <li>・不審者侵入を未然に防ぐための環境整備や侵入時の対応訓練に取り組んだ。催涙スプレーや刺股等の補強をした。</li> <li>・専門医やPTを講師として職員の研修を実施した。</li> <li>・薬物乱用防止教室を実施した。</li> <li>・スクールカウンセラーと相談しながら、寄宿舎の生徒指導に取り組んだ。</li> <li>・児童生徒会を中心に「関特にこにこキャンペーン」を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「安全配慮義務」の意識をもって取り組めたか。</li> <li>② 予想される危険やそれをどうしたら未然に防ぐことができるかなど、職員間で共通理解した上で取り組めたか。</li> <li>③ 訓練が、安全面に配慮して実施できたか。</li> <li>④ 研修が、職員の危機管理意識を高めることができたか。</li> <li>⑤ 同様な事故が再発しなかったか。</li> <li>⑥ 児童生徒の明るい表情や自発的な動きが見られたか。</li> </ul>	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;"><input checked="" type="checkbox"/> A</td> <td style="width: 25%;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D	<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D
<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D																							
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D																							
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D																							
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D																							
<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D																							
<input checked="" type="checkbox"/> A	B	C	D																							
<p>11 成果</p> <p>○毎回違った場面を想定した緊急体制での訓練を繰り返し実施し、緊急時の適切な対応を考え、緊急体制の確立について再検討することができた。中濃特別支援学校分教室とも連携を図ることができた。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ▲訓練をするたびに新たな課題が見つかるが、解消できないままている。</li> <li>○様々な学級活動や生徒会活動を通して、いじめのない温かい人間関係を育むことができた。</li> <li>○職員や保護者向けに様々な専門家による研修を実施し、児童生徒の健康面について連携しながら取り組むことができた。</li> <li>○寄宿舎と連携して、生徒が安心した生活を送れるように工夫した。</li> <li>▲ヒヤリハットの報告や全体への周知が遅くなるがあった。</li> </ul>		<p>総合評価</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%;"><input checked="" type="checkbox"/> B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table>	A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D																				
A	<input checked="" type="checkbox"/> B	C	D																							
<p>12 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練を通して、危機意識が高まるような工夫をする。</li> <li>・ ヒヤリハットの全体周知を徹底する体制を作る。</li> <li>・ 児童生徒会活動や交流活動等を通して、温かい居場所づくりを工夫する。</li> </ul>																										

## II 学校関係者評価

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本当に細かいところまで気を配って、子どもたちに対応していることがわかった。</li> </ul>
--

## I 自己評価

1 学校教育目標	<p>創意ある教育実践を通して豊かな人間性と児童生徒一人一人の発達段階や障がいの状態に応じた生きる力を養い、社会参加・自立できる人間を育てる。</p>	
2 評価する領域・分野	キャリア教育	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「保護者対象」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「進路情報の提供」については83%の保護者が肯定的評価をしている。「進路・関係機関との連携」については89%が肯定的に評価しており、昨年度に比べて大きく改善した。また、「個性や能力を伸ばし、社会自立、職業自立を図る進路指導」においては80%、「将来を見通した支援」では88%の肯定的評価を得ている。</li> </ul> <p>「生徒」アンケートから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校の先生に家の人が相談しやすい」「学校の行事や出来事を家の人にわかりやすく伝えている」については100%の生徒から良好と評価を得ている。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や関係機関等と連携した進路指導体制の充実</li> <li>・「個別の教育支援計画」を活用した適切な指導の推進</li> <li>・卒業生を含めた、社会的自立、職業的自立に向けての計画的な指導</li> <li>・掲示板や通信等を通じた進路情報の積極的な提供</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路支援部と自立支援部が協力してキャリア教育充実のための、小学部から高等部までを含む学部間の連携の充実を図る。</li> <li>・研修部を中心に全校研究を行い、専門家の助言も取り入れながら、小学部・中学部・高等部の連携を図る。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な課題	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進学指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、短大見学、オープンキャンパス参加等</li> <li>・模擬試験、補習、面接指導、小論文指導</li> </ul> <p>(2) 就職指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補習（一般教養、作文）、面接指導、模擬試験、</li> <li>・地域実習、進路体験実習、卒業生支援</li> </ul> <p>(3) 市町村の担当機関や進路先との移行支援会議の実施</p> <p>(4) 小学部段階からのキャリア発達支援の充実</p> <p>(5) 全校研究を通しての、各学部の取組の連携</p>	<p>(1) 進路志望の具体的達成状況</p> <p>(2) 保護者と学校との連携</p> <p>(3) 保護者・生徒と、市町村・進路先との連携状況</p> <p>(4) 各部間における情報交換及び連携の状況</p> <p>(5) 研究発表における専門家の評価と指導・助言</p>	
8 取り組み状況・実践内容	9 評価観点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての保護者を対象に総合支援法に関する研修や進路行事への参加、事業所見学を実施した。保護者説明会も2度実施した。</li> <li>・事務職や介護職、流通、コンピューター関連事</li> </ul>	<p>①保護者の参加状況や参加態度はどうであったか。</p> <p>②就職・進路志望先が生徒個々</p>	<p>A    <b>B</b>    C    D</p>

<p>業所、居住地の市役所と連携し進路体験実習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般教養や作文等の補習指導、面接指導、模擬試験等を行うなど、個別の進路指導を行った。</li> <li>・居住地の福祉課等の協力を得て、移行支援会議の充実に努めた。</li> <li>・年間を通じて、研修部を中心に学部間の連携を図りながら、児童生徒の将来を見通した支援のあり方を研究した。</li> </ul>	<p>の実態に合ったものであったか。志望先の達成状況は満足できるものであったか。</p> <p>③移行支援会議は、円滑な移行に向けて内容のあるものであったか。</p> <p>④研究の成果が、各自の実践にどれだけ反映されたか。</p>	<p><input type="checkbox"/>A    B    C    D</p> <p><input type="checkbox"/>A    B    C    D</p> <p>A    <input checked="" type="checkbox"/>B    C    D</p>
<p>11 成果 課題</p>	<p>○掲示板を各学部玄関に設置し、小学部段階から保護者に積極的な進路情報を提供することができた。また、中学部と高等部との連携体制を整え、学年の早期から自分に合った進路を考える機会を作ることができた。</p> <p>○移行支援会議を実施し、学校と市町の福祉事務所や支援機関、進路先との連携を図ることができ、円滑な移行への準備ができた。</p> <p>○障がい者雇用開拓員をはじめ、障がい者就業・生活支援センター・ハローワークと連携し、生徒一人一人により適した就職先を開拓することができた。</p> <p>○校内支援・地域支援を充実させ、特別支援教育支援センターとしての機能を充実させた。</p> <p>▲病弱の児童生徒に対する進路支援の在り方を検討していく。</p> <p>▲小学部・中学部の職員に対して高等部卒業後の児童生徒の様子を十分に知らせていくことができなかった。</p>	<p>総合評価</p> <p><input type="checkbox"/>A    B    C    D</p>
<p>1 2 来年度に向けての改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱の児童生徒に対する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を充実させる。</li> <li>・小学部・中学部・高等部を通じた一連のキャリア教育を充実させる。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <p>・個に対する支援は素晴らしいが、社会に出ても対応できることが大切である。小さいうちから社会に出た時に適応できる力をつける教育をしてほしい。</p>
--